

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	書写
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(書写) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・単元の目標の示し方では、「～するにはどうしたらよいか考えましょう」のように問いかけの形態で目標が設定されている。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計46P掲載されている。
	観点2	・学習過程を「見つけよう。→たしかめよう。→生かそう。→話し合おう。→広げよう。」とし、どのように学ぶかを明確に示し、「書写のかぎ」をキーワードに課題解決的な学習展開になっている。
	観点3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が35P、伝統的な言語文化に関する内容が9P、計44P掲載されている。
	観点4	・硬筆では、筆順のきまりにあたる部分の色を変え、筆順を赤字で示し、一部を書き込むようにしている。色の数や分量を制限したり、書き込み欄を文字の下や教材文の左右両方に配置している。
	観点5	・「生活に広げよう」「学びに生かそう」という単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて24掲載されている。
11 学図	観点1	・単元の目標の示し方では、「～しよう」と呼びかけの形態で目標を示している。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計33P掲載されている。
	観点2	・「1ためして書こう→2考えて書こう→3生かして書こう」という学習過程を設定し、何が身についたかが実感できる構成になっている。
	観点3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が18P、伝統的な言語文化に関する内容が18P、計36P掲載されている。
	観点4	・硬筆では、筆順を赤字で示し、書き方のカギを異なる書体と文字で2回示している。書き込み欄は教材文字の下に配置している。全体的に書き込み欄を多く設けている。下部分に新出漢字の筆順を色で分けて示している。
	観点5	・「書写の資料館」「発展」の単元を設けている。学びを生かす教材数は全学年合わせて44掲載されている。
17 教出	観点1	・単元の目標の示し方では、「めあて」とし、「～しよう」と呼びかけの形態で目標を示している。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計47P掲載されている。
	観点2	・学習過程を「見つける、くらべる→書く、たしかめる→ふり返る、伝え合う→広げる」とし、教材を比較・検討し、気づいたことを生かして書く構成になっている。

	観点3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が37P、伝統的な言語文化に関する内容が11P、計48P掲載されている。
	観点4	・硬筆では、筆順を黒数字で示し、書き順のきまりにあたる部分を赤で示している。下部分に新出漢字の筆順を黒数字で示している。書き順のきまりを2回示している。
	観点5	・「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」の単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて29掲載されている。
38 光村	観点1	・単元の目標の示し方では、「分かりやすいのはどちらだろう」といった問いかけの形態で目標が設定されている。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計46P掲載されている。
	観点2	・学習過程を「考えよう（整った文字の書き方を考えよう）」→「確かめよう（書き方をたしかめて毛筆で書こう）」→「生かさう（学習したことを生かして、書こう）」として提示してある。自分で考えたり、確かめたりするだけでなく、友達と話し合う学習展開を設け、対話的な学びを通して、学習を深められるような構成になっている。
	観点3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が29P、伝統的な言語文化に関する内容が7P、計36P掲載されている。
	観点4	・硬筆では、書き順のきまりを緑色の矢印、上段筆順（決められた色）下段筆順（赤数字）で示している。書き順の決まりを異なる書体と文字で2回示している。書き込み欄を教材の右側に配置している。
	観点5	・「学習に生かさう」「やってみよう」「書写ブック」「発展」の単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて29掲載されている。
116 日文	観点1	・単元の目標の示し方では、「～して書こう」という呼びかけの形態で目標を示している。姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計39P掲載されている。
	観点2	・学習過程を「課題をはっきりさせ、見通しをもつ→学習に取り組む→ふり返り、次の学習に生かす」とし、キャラクターの発言が、児童の「気付き」を促すように設定され、課題解決的な学習展開を行い、自己評価を行うことができる構成になっている。
	観点3	・伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が27P、伝統的な言語文化に関する内容が9P、計36P掲載されている。
	観点4	・硬筆では、筆順を青数字で示し、一部を空欄で書き込むようにしている。新出漢字の筆順を教材文字の横に配置している。書き込み欄を教材文字の下に配置している。
	観点5	・「生活と書写」「国語の広場」「チャレンジ」の単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて30掲載されている。